

パネル 2013年度サンファン館での企画

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東北学院大学文化財レスキュー班 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/361

資料の保全とデータ収集活動

●本学の文化財レスキュー活動とは

東北学院大学博物館は、東日本大震災によって被災した旧牡鹿公民館所蔵の民俗・考古・地学資料の一時保管施設です。そのなかでも民俗資料は、保全作業とともに、展覧会を開催して聞き書き調査を行い、資料に関するデータの収集にも力を入れています。

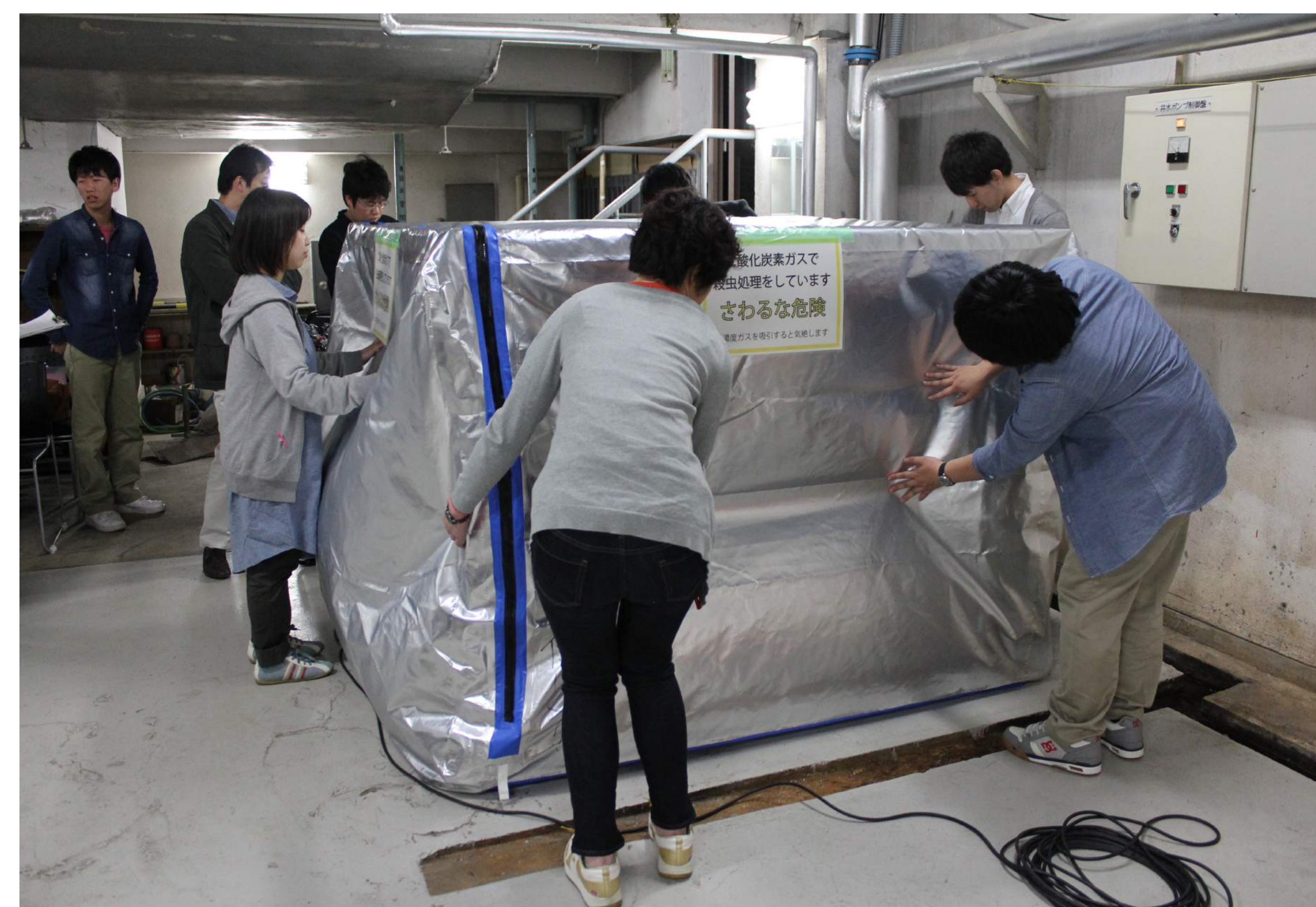
●資料の保全活動

資料の中には、汚れの洗浄をしたにも関わらず木製品を中心に虫害が発生しました。そこで、2013年5月からは学生でも比較的扱いやすい二酸化炭素ガスによって殺虫処理する作業を進めています。これは、密閉されたテントの中に充満させた二酸化炭素ガスにより、資料の中に住みついている虫を窒息死させ、さらなる虫害を防ぐことが目的です。二酸化炭素ガスは濃度が高くなると人体にも危険を及ぼすことがあるため、事前に同じ方法で殺虫処理を行っている角田市教育委員会と、業者の方から、作業の注意点などを学びました。

大学では、民俗学実習を履修している3年生と昨年も活動を経験した4年生が中心となって慎重に作業を行い、テント内のガスの濃度を測りながら殺虫処理の作業を行いました。作業は準備におよそ3時間、資料をテントの中に安置し殺虫するのに3週間かかりました。今後も傷みがひどい資料から殺虫処理をほどこす予定です。



テントへの資料の搬入



テント内のガスの濃度を均一化する作業

●資料のデータ収集活動

資料に関するデータの収集活動も、引き続き行っています。2013年8月13～15日には、東北学院大学の文化財レスキューチームが中心となって、旧牡鹿公民館の跡地で「牡鹿半島のくらし展 in 鮎川―再生・被災文化財―」を開催しました。

展覧会開催にあたり、その準備として、私たちは6月頃から牡鹿半島の昔のくらしや、昔の道具の一般的な使い方、震災後の変化について事前に調査を行いました。この調査は生活衣食住班、農業養蚕班、漁業班、捕鯨班の4つに分かれ、各種文献や新聞記事などからデータを収集するものです。調査した成果をチーム全員で共有したことにより、牡鹿半島のくらしや地理について理解を深めることができ、展覧会当日に聞き書き調査をするうえでの事前知識としてとても役立ちました。

●展覧会の開催準備

データ収集を終えると、展示する資料の選別と梱包の作業に入ります。資料の選別は、資料を見た方が昔のくらしを思い出せるようなものを選びました。資料の出陳リストを作成し、以降はこのリストをチェックしながら作業を進めます。展示する資料が確定すると、梱包材を駆使して、資料が運搬中に壊れないよう梱包していきます。慣れない作業に、私たちはみんな資料とにらみあいながら四苦八苦しました。

展覧会前日の8月12日、資料をトラックへ積み込み鮎川に向かいました。昨年展覧会を行った旧牡鹿公民館が取り壊され更地となったため、まず会場にする仮設テントの設営を行い、そのなかに展示台を並べ、おおまかに資料の配置を決定しました。

この日は岩崎・グッドマン・まさみ先生率いる北海学園大学のメンバーとも合流し、鮎川の捕鯨に関する調査を行いました。



展覧会場での資料の陳列